

## 基本情報

### 指標番号

3423

### 名称

周術期予防的抗菌薬の薬剤種類遵守率：経尿道的前立腺切除術（TURP）

### 分母

経尿道的前立腺切除術（TURP）が行われた症例

### 分子

手術実施日に推奨抗菌薬が投与されている件数

### 指標群

周術期抗菌薬予防投与

### 意義

周術期抗菌薬の適切な使用（薬剤種類：CEZ、CTM、SBT/ABPC、アミノグリコシ系薬）をみるプロセス指標

### 年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

### 必要データセット

DPC 様式 1,EF ファイル

## 指標の定義算出方法

### 分母の定義

1. 解析期間に入退院した症例を対象とする。
2. このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

診療行為コード	基本漢字名称	Kコード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150209110	経尿道的前立腺手術	K841	○	○	○				
150379610	経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	K8411			○	○	○	○	○
150379710	経尿道的前立腺手術（その他のもの）	K8412			○	○	○	○	○

3. このうち、手術実施日の前日（手術日-1）に抗菌薬（注射薬抗菌薬）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○	○

4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

### 分子の定義

1. 分母条件2「手術点数コード」の実施日にCEZ、CTM、SBT/ABPC、アミノグリコシ系薬が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、下記抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例、かつ当該薬剤以外の抗菌薬が同日に投与されていない症例。

薬価基準コード7桁	成分名	推奨抗菌薬	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
6132401	セファゾリンナトリウム	CEZ	○	○	○	○	○	○	○
6132401	セファゾリンナトリウム水和物	CEZ	○	○	○	○	○	○	○
6132400	セフォチアム塩酸塩	CTM	○	○	○	○	○	○	○
6139504	スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム	SBT/ABPC	○	○	○	○	○	○	○
6161400	ストレプトマイシン硫酸塩	SM	○	○	○	○	○	○	○
6123401	トブラマイシン	TOB	○	○	○	○	○	○	○
6134407	ゲンタマイシン硫酸塩	GM	○	○	○	○	○	○	○
6169400	カナマイシン硫酸塩	KM	○	○	○	○	○	○	○
6123402	アミカシン硫酸塩	AMK	○	○	○	○	○	○	○
6134400	ジベカシン硫酸塩	DKB	○	○	○	○	○	○	○
6134401	リボスタマイシン硫酸塩	RSM	○	○	○	○			
6123404	イセパマイシン硫酸塩	ISP	○	○	○	○	○	○	○
6119400	アルベカシン硫酸塩	ABK	○	○	○	○	○	○	○

### その他

#### 薬剤一覧の出力

はい

#### リスク調整因子の条件

#### 指標の算出方法

分子÷分母

#### 指標の単位

%

#### 結果提示時の並び順

降順

### 測定上の限界・解釈上の注意

1. 本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
2. 抗菌薬アレルギー患者などに対しては、予防的抗菌薬として推奨抗菌薬以外の抗菌薬が投与され、分子に含まれない可能性がある。
3. 本指標は2016年度のガイドラインを参考に作成しているため、それ以前での算出は経年変化を見るための参考値。
4. SBT/ABPCの供給不足(2018年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。
5. CEZの供給停止(2019年ごろ)がQI値に影響する可能性がある。（代替薬として厚生労働省より通知があり、下記にリンクを添付）

### 参考資料

#### 参考値

#### 参考資料

1. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会, 公益社団法人日本化学療法学会/ 一般社団法人日本外科感染症学会. 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン. 2016.
2. 厚生労働省健康局結核感染症課・医政局経済課からの通知(平成31年3月29日)  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000498133.pdf>